

Chapter 10

What Does the Tokyo Skytree Tell Us?

■東京スカイツリーの力？

東京スカイツリーは、内部に観光施設もありますが、テレビやラジオなどの放送の電波を送信する自立式の電波塔です。電波塔はより遠くまで電波を届けるために、高いものも多く、東京スカイツリーのような自立式の電波塔で高さが300mを超えるものは世界には30あまりあります。より高い電波塔は、それだけ文明が進歩していることを表していますが、これには高いタワーを建設できる高度な技術力を持つ国であることを示すと同時に、多くの電波塔が観光施設をあわせ持っていることからわかるように、象徴的な意味も含まれています。



古くは巨大な建物は、城が権力の象徴として、神社や寺院は権威の象徴としてそれを見た人に威容を示すという役割もありました。電波塔が巨大であるというだけで威圧されることはないでしょうが、それでもスケールの大きな施設は見る人にある種の感動を与えて、関心を呼ぶことも少なくありません。

生徒用資料集は、授業の興味付けに役立つ
Lessonのトピックに関連した読み物です。

■最新技術と伝統

東京スカイツリーは様々な最新技術に加えて伝統工芸を生かした設計やデザインが採用されています。特に、地上と天望デッキ（第一展望台）までの350メートルをわずか50秒で結ぶエレベーターは、乗り心地と国内最高の速度を両立した技術はもちろんのこと、内装においても、職人たちが現代まで受け継いできた伝統をも発信するスポットとなるよう、設計されデザインされています。

4基あるエレベーターはそれぞれ四季に対応しており、視線の高さよりやや上に設置されたパネルにそれが表現されています。春は桜吹雪が舞う「桜の空」、夏はスカイツリーの近くを流れる隅田川の花火大会



をイメージした「隅田川の空」、秋は神輿（みこし）の上の鏝（かざり）となる鳳凰（ほうおう）をモチーフにして墨田区のお祭りを表現した「祭の空」。富士山を背景に都鳥（ゆりかもめ）が冬の空に舞う「都鳥の空」は、「名にし負（お）はばいざこととはん都鳥わが思ふ人はありやなしやと（現代語訳：都という名にちなんで尋ねよう都鳥よ、私の思い人は都にいるのかどうか）」と在原業平（ありわらのなりひら）が詠んだ、隅田川の和歌にちなんだものです。

こうした四季のデザインには職人の技が光っていま